



碧南ロータリークラブ週報

第2171回例会 平成15年4月9日(水) 曜.最高17℃.最低7℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 ☎ 447-8501 碧南市源氏神明町90番地
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



● 齊唱

ロータリーソング「我らの生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

卓話講師

碧南市教育長 小笠原幸男氏

会長挨拶

今日は元気になるお話をします。

マレーシアのマハティール首相はかつて「日本に学べ」と国民にはっぱをかけたそうですが、今では日本に学ぶものはもはや無いと言っているようです。彼は今年で22年政権を担当する名物リーダーです。

マハティール首相は昨年末77歳の誕生日を元気で迎えたそうです。彼の元気の秘密を尋ねたところ、彼は「うたた寝をする事」そして「節度を守る事」と語ったそうです。「節度を守るとは小さな事の寄せ集めです。食べ過ぎない事、不摂生をしない事、決して無理をしない事です」と説明したそうです。

マハティール氏は7人の子供と15人の孫が居るそうですが、今年で22年の政権から引退することです。彼の「うたた寝」は毎日15分ぐらいだそうですが彼は決して横にならないそうです。「私は横になりません。どんな状況でも目を閉じていれば15分眠りその後速やかに仕事に戻れます。特に飛行機の中ではほとんど眠っております。もし12時間のフライトであれば10時間眠っております」と言っているようです。しかし、夜はパーティーなどで床につくのは毎日午前1時頃になるとの事、それでも床に入ればほとんど途中で目が覚めることは無いそうです。

やはり元気の秘密は、何処の国でも同じ、「よく眠る事」そして「節度を守る事」です。私もその事を守ろうとしています



小笠原幸男氏

幹事報告

近隣クラブ例会変更等は、お手許の資料の通りです。(詳細は各クラブにお問い合わせください)

4月2日に理事会が開催されました。その理事会の内容のご報告をさせていただきます。

1. 3月分の収支について、原案どおり承認されました。
2. 碧南ロータリークラブ創立45周年記念事業実行委員長には永井 一さんになっていただくということで、ご承認をいただきました。

3. 新世代委員会より助成事業について、原案どおりご承認をいただきました。
4. 例会の変更について、6月25日定款第5条第1節の規定により休会とするということになりました。よって最終例会は、6月18日ということになります。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77名 (内出席免除者 15名) 出席者63名	
出席対象者 54/62名	出席率 87.1%
欠席者14名(病欠者0名)	前々回修正出席率 98.41%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 卓話講師 碧南市教育委員長 小笠原 幸男氏より卓話のお礼をニコボックスへいただきました。
- 永坂 隆一君 「碧南商工会議所新会館竣工式」並びに「創立50周年記念式典」無事に済ました。皆様方のお蔭と感謝します。
- 長田 昌昇君 町内会のオジンとオバンで姫路城の桜を見てきました。満開できれいでした。
- 長田 徳雄君 市政55周年の式典で市功労表彰を受けました。
- 樅山 善久君 小林秀央県議5期目の当選が早々と決りました。みなさんのご支援のおかげです。感謝。
- 加藤 良邦君 4月3日、春季大祭、お蔭様にて、天候に恵まれ無事終了いたしました。有難うございました。
- 角谷 信二君 3クラブゴルフ大会にて優勝させていただきました。又、中部新報三河人に写真が大きく載りました。
- 鈴木 昭洋君 4月ゴルフ例会優勝しました。くり上げ優勝でも優勝は優勝です。
- 原田 達八君 うれしい事がありました。
- 加藤 知彦君 東京都美術館にて開催中の第33回日彫展にて長男が会友推举となり、父子揃っての出品となりました。名古屋での日彫展は5月20日から25日まで開催されます。
- 長田 豊治君 本日の講師、小笠原幸男先生をご紹介申し上げます。
- 小笠原良治君 おかげさまでキリンラーメンの限定販売も好評で内心びっくりしています。多くの方々に想い出話ををしていただきたいと思いますが生産が間に合いません。社長の私でさえ、予約になっています。悪しからず。感謝感謝でうれしい限りです。追記、来週で予約を打切ります。
- 犬塚 敦統君 4月5日、経営計画発表会、杉浦健次さんにお世話になりました。
- 平岩 辰之君 長女が大学、長男が高校へ無事入学しました。今後の成長が楽しみです。
- 新美 真司君 次男が中学に入学しました。
- 竹中 誠君 4番目の子供が高校に入学しました。
- 清澤 聰之君 子供が高校に入学しました。
早退6件 合計 65,000円

〈地区の新世代委員会〉

昨日委員会がありました。先週配られましたガバナーゲッシン4月号の表紙の次2, 3ページを是非お目を通していただきたいと思います。

その事業として4項目、今から日本全国にかけて行っていきたいということです。

それで、くれぐれもガバナーからの押し付けではないと。各メンバーの個人の奉仕をクラブ地区が側面からまた後方からお手伝いをするというふうに解釈をして欲しいと、トップダウンの押し付け事業ではないと、そういうおいて欲しいということでございました。これは単年度事業で終わってしまっては、何もならないということで、これは継続事業でないと意味がないということですので、本年度の地区の新世代委員会がこの準備を始めますが、実質上名簿を作ったり事業

所一覧を作ったりするのは、来年度の各クラブの新世代委員会の事業の一つになっていくように思います。それを継続してやっていけということでございます。なかなか大変な事業だらうと思いますが、そういったことが上の方では動いております。報告だけさせていただきます。ありがとうございました。

卓 話

みなさん、こんにちは。

まず、最初の話は、三重県に国児学園といって、罪を犯した子、世間に迷惑をかけた子供を収容する施設がございまして、そこの所長をやっている小野木先生という方がいらっしゃいます。この国児学園の施設整備が実現することになったと。寮舎の建設予定地にやぐらを組み鉄パイプを地下へねじ込んで地質を調べるボーリングが始まった。ヘルメットに作業服の青年に立ち会ってくれと言われ、現場へ急行したのだが、その青年をどこかで見たような気がしてならない。監督が場所を離れるのを待って、「ちょっと、君。」と声をかけると、「先生やっと気がついてくれたのか。」と髭をたくわえた彼の笑顔に面影があり、「ああ、おまえTじゃないか、奇遇だなあ。」となって久しぶりの再会に話が弾んだ。彼は卒園して12年、27歳になるという。「それじゃあ、嫁さんもそろそろだなあ。」「とっくに母ちゃんもらったけどさ、臨月の腹をかかえて国道渡っている時、車にはねられて母子即死だった、あれから4年になるけれど。」「それは気の毒なことしたなあ。」話題はここで辞めておくべきだった。「それでも、考えようによつては、子供が残らなかつたことは不幸中の幸いだったね。4年の月日も経過したことだし、そろそろ結婚も考えてもいいじゃないかなあ。」「先生、何いってるんだよ。今でも死んだ母ちゃんの写真を額に入れて一緒にご飯を食べているんだよ。」話題はここで辞めておくべきだった。「ところで、事故死だつたなら、まとまつた賠償金が入つたんだろ。」「そりゃあ入つたさ。でもな先生、最愛の母ちゃんの命と交換に受け取つた金で何ができると思う、家を建てる氣にも、車を買い換える氣にもなれんよ。」この話はここで辞めておくべきだった。「で、どうした?」「全部きれいさっぱり、老人福祉施設へ寄付したよ。」と言い切つてすがすがしそうな表情の彼に、「全部か。」とつい本音が口をついで出つてしまつた。ああ、恥ずかしい、自分はなんて浅ましい人間なんだろう。彼は、長年の農業で腰を痛め、身の回りのことも不自由な母と二人暮し。だから自宅から150キロも離れた職場へ朝4時起きして通つてゐるのだと言う。そんな話を聞くにつれ、ますます自分が小さく思え、彼が眩しく見えてならなかつた。あれから何年になるのだろう、たまには酒でも飲もうと約束したが、果たせないままになつてゐる。下らんやつだと彼に見限られたのかもしれない。

こういう話でございますが、今の若者はということで、色々世間を騒がし、私共も眉をひそめるようなことがいくつかあるのですけれど、一旦世の中の道をはずした子がこんな大人になつてゐることを知りまして、私は非常に感動しました。

それから、初月給ということで、お話をしたいと思います。

初月給は親のために使えと、しつこく言う60代後半の先生がいます。この先生は幼い頃、熊本で日用雑貨の行商をしていた両親のリヤカーに乗つて育ちました。貧しい生活でしたから寒い日のお母さんは首にタオルを巻いていました。お父さんの夢は、白いパンを腹いっぱい食べてみたいということでした。そんな記憶が残つていたから、初月給をもらった先生は、お母さんにネッカチーフをお父さんにはトースターをプレゼントしました。お父さんはよほどうれしかつたのでしょうか、1枚1枚自分で焼く旧式のトースターをその後長年大切に使われたそうです。その先生の話を聞いた短大卒で信用金庫へ今年就職した女性が初月給を親のために使って喜んでもらおうと両親をレストランに招待しました。お母さんは前日から美容院にセットに行つたりして大喜び、ところがお父さんはズッと不機嫌な顔をしてついて来ました。「何を怒つてゐるの。」と尋ねたら、「1回の晩飯ぐらいで俺が20年間苦労して育てたことが帳消しなると思ったら大間違いだぞ。」と言う。そんなことどうして言うのと思ったけれど、口には出しませんでした。今日はめでたい日だし、お母さんは横でパクパク食べているし、今更怒つて帰れない。しばらく天上を見つめていたお父さんがポツッと、「ビールぐらい飲んでいいか。」とおっしゃつた。誰がビールなんか注いでやるもんか、と思ったけれど、注がなきゃしょうがないなと思って彼女はお酌した。ところが、

コップを差し出したお父さんの手には、20年間勤めたセメント工場の白い粉がビッシリ手の中の皺と毛穴に詰まっていました。それに気付いた彼女は、お父さんごめんね、と言いたかったけれど、どうにも言葉になりませんでした。自宅に戻ったその後、彼女がトイレに行こうとして、両親の部屋の前を通りかかったら、中から話し声が聞こえてきました。どうせまたお父さんが私の悪口を言っているのと思ったら、それが違うのです。「俺も50いくつかになるけれど、今日みたいに美味しい晩ご飯は初めてだった。アイツの顔を見ていたら、俺は涙が溢れそうになったから、天上しか見れなかっただけで、なあおまえ、本当にいい娘に育ったなあ。」その瞬間、彼女はそこから先に足が進みませんでした。そのまま自分の部屋に帰って頭から布団を被ってバンザイと叫んで布団の中で朝まで泣き続けました。

今度は地道な活動、つまり、それぞれ仕事、自分の誇りを持って仕事をすれば、どんな仕事も立派な仕事だと、こんなような話になっていくわけですが、お聞きください。

以前、4年生大学を出た女子学生が「私はお茶汲みをするために大学を出て会社に入ったのではありません。」と言ったという話を聞いたことがあります。お茶汲みさえできない人間に上司がもっと大切な仕事を頼むはずがないと思うのですが。私はこの会社で一番美味しいお茶を入れてあげよう、入れる人間になろう、と思った人が次のステップを踏むことができる人ではないでしょうか。これだけ能力があるのだから、お茶汲みなんて、と言われても本当に能力があるのかどうか、見た目には分からぬことです。その前に与えられた役割、お茶汲みという仕事で相手に喜んでもらうことが大切ではないでしょうか、与えられた役割というものはこういうものだと思います。ある企業で7階建てのビルを持っていました。各階に社員用のトイレがあるのですが、それがいつも落書きで汚されています。社長自ら注意するのですが一向に効き目がありません。「お前達は何という馬鹿者か。」と怒鳴りたいのですが、その馬鹿者を選んだのはあなたですよと言われたらおしまいです。ストレスはたまる一方。とうとう社長もさじを投げてしまいました。ところが、それでもあきらめない人が居たのです。トイレ掃除のおばさんです。おばさんは半紙を四つ切にした小さい紙にお願いを書き、すべてのトイレの入口に貼りました。するとどうでしょう。あくる日から一切の落書きが消え去りました。驚いた社長が見に行くと、そこにはこう書いてありました。「ここは私の職場です。この職場を落書きで汚さないください。」おばさんがトイレ掃除はたいした仕事でないと思ったら、たいした仕事ではありません。反対にトイレ掃除は私にとっても大切な仕事なのだと思えばすばらしい仕事となるのです。社長は初めて気付かされました。肩書きじゃないんだ。与えられた役割、仕事をどういう姿勢でやっているか、その思いが大切なのだ、思いを変えることによって職場を変えることができるのだ。3Kという言葉があります。本人が3Kの職場と思ったら、そこは3Kの職場となります。しかし、私にとっては大事な職場なんだと思ったら、どんな職場だってすばらしい仕事場になるのです。要は自分の思いを変えることができる強さを持っているかどうかの問題なのです。

こういうお話をございます。やっぱり、人間が自分の思いを変えるということ、非常に難しいことがあります。私も教育現場で、つまり学校の先生方に色々意識の改革を求めております。言葉で言うのは簡単ですが、自分はこういう風に思っておったのをこんな風に変えて実際にこんなことをしております、という答えが返って来るのを楽しみにして、一つでも二つでもそういう先生の反応を私は期待して待ってるわけでございますが、なかなか自分の思いというのは口先では言えても、心底変えて行動にうつすということの難しさをこの文を通して私は感じました。

私が自分の心に感じた話ということで、いくつかを紹介させていただきましたが、皆様方の心にどんな風に届いたかちょっとわかりません。大切な時間をこんなことで費やさせたということで非常に恐縮しております。今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

次回例会案内／4月23日（水）「プロゴルフよもやま話」

キャッスルヒル カントリー所属プロ 児玉 年旦氏